


第198話 俳諧⑪ 俳諧歌枕と俳諧発句 その1  中山町 歴史散策

文新田の服部文右衛門家文書の中に、「俳諧歌枕」のほか数種の小冊子が残されています。

「俳諧歌枕」は、縦14センチメートル、横18センチメートルの袋綴じ70ページにも及ぶものです。奥付には次のような小文が記されています。

「これは宝暦8年4月26日、米沢御家中梨本甚蔵殿より借り申候而、うつしたるもの、これは梨本甚蔵殿の書なり」とあり、その後尾には、直径3センチメートルの丸判の中に、「笠」、その真下に印刻の「服部」、右に長崎、左に文新田とあります。巻頭の文章は3枚にわたって俳諧歌枕の序文が記されており、蓮二坊こと各務志考の直筆ではないが、なかなかの筆遣いとなっています。

(以下原文のまま)

俳諧 歌まくら
其 序

蓮二坊

ことし長月のはじめ出羽なる風草のぬし此山里をたずね来れり、されば股引の引はへたる百余里の旅人とも見えず、彼山の何尾主に便りせられて獅子門の園に肘を曲げて一夜

の侘をならハ無とや、実に其人の生質を見れハ俳諧の名に身をかざらず、俳諧の利に世をわたらず。

遠く其国を其人を等しく風雅のちぎりをむすびおかハ月雪花の折りおりにとへハ出羽の国ハへだつとも越路の風の便りを忘れじと也、しからは人の盛衰にまぞハず老後の樂しみを知れる人とはいうべし。

ここに和歌の旅寝の歌まくらによせて、篇・序・題・曲・流之五品より獅子門の一同に差ゆるされ、是より心の緬に鞭うちていなばの山のちかく尾府の名にある人々をたずね、伊勢路ハまして長月のいざ宵のころとからめそれより都の秋の名残に桜ハ春にさくとて、ちる柳の陰にかくれし家のあるじの老や頼とすべし

かくて五歌仙の優游に一挙万里の姿情をつくせハ歌人の居なからむといふべし、名所もあるきてしらべれハ唐の芳野はいざしらず、千とせを羈園とよめハ老木の花のたのみなるべし

享保戌申九月 日

※引用…中山町史 中巻

第10章 第3節

文芸と美術工芸から

私たち地域おこし協力隊です！ No.64 

はじめまして。11月から地域おこし協力隊に着任した阿部美恵子です。

高校野球が大好きな栄養士です。

紅花の口紅から中山町を知り何度か訪れ、最上川河川敷から見る月山と葉山の風景に感動。そして、町の中を歩いて出会う方々が親切に対応して下さり、人の暖かさも実感。その場でもらったボタンキョ（すもも）が美味しかったです。

山側の豊田地区からの眺めは壮大ですし、112号線から見える夜景も素晴らしいです。

私の出身地は栃木県で関東では佐野ラーメンが有名ですが、山形県がラーメン大国でソウルフードだと知り驚きました。旨味が濃いのにさっぱりしていて食べやすく私はもうとりこです（毎日食べたいくらい）。『肉そば』と『鳥そば』を間違えてしまうことがよくありましたが、今では友人に詳しく違いを説明できるようになりました。ご縁をいただき地域おこし協力隊になり、今後はもっと中山町の素敵なことやものを発見していきたいです。



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦

●協力隊への
問い合わせ先●
☎662-4271
(総合政策課)